

日吉台地下壕保存の会

会 報

第44号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

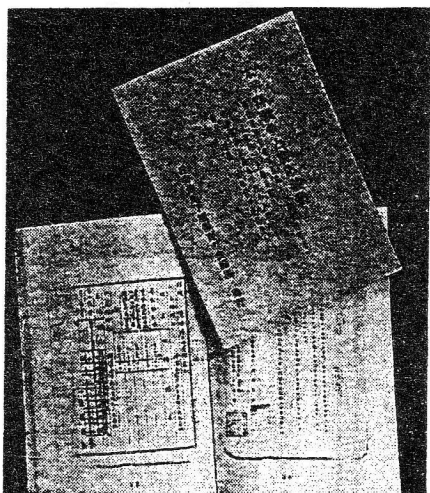
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

横 浜

戦時下の大学に焦点

地下壕保存会
が報告書 資料、証言基に

神奈川新聞1997.11.5より



東京・神宮外苑での学徒出陣壮行会から五十四年たつが、報告・講演集「太平洋戦争と慶応義塾」が「旧海軍連合艦隊司令部」日吉台地下壕(こ)「保存の会」(飯島重俊会長)により刊行された。戦争に大学が組み込まれていく過程を資料と証言でまとめている。

まず、「旧海軍極秘地下施設」では、同大学日吉キャンパスの地下に広がる地下壕の分布と概要を約十年にわたる実地調査をもとに説明。

また、「旧海軍極秘地下施設」では、同大学日吉キャンパスの地下に広がる地下壕の分布と概要を約十年にわたる実地調査をもとに説明。

また、「旧海軍極秘地下施設」では、同大学日吉キャンパスの地下に広がる地下壕の分布と概要を約十年にわたる実地調査をもとに説明。

特に、学徒出陣や徴兵年齢の引き下げで学生の激減した大学施設を軍隊に貸与せよという文部省の指示に従い、同大の土地・建物などを海軍が一方的に借り上げた貸貸借契約書(昭和十九年三月十日付)や日吉に司令部を移すことに関する軍令部総長から昭和天皇への奏上文などの貴重な資料も収録している。

また、「学徒出陣」と特攻隊や同大出身の元海軍将校の戦争体験、当時

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

約10年にわたる調査報告や貴重な資料を収録した「太平洋戦争と慶応義塾」

目 次

ページ

戦時下の大学に焦点	1
「太平洋戦争と慶応義塾」紹介	
慶応義塾担当理事との	
会見について	2
教職研修 日吉台地下壕案内記	3

二等兵参謀の	
空想平和博物館設立案	4~5
日吉台地下壕見学会感想文	6
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話	7
幹事会報告	8

慶応義塾担当理事との

△意見について

副会長 東郷 秀光

慶應義塾の湯川武理事との地下壕保存の会の意見が十一月八日午後、日吉の会議室で行われました。

地下壕保存の会の側からは、鮫島重俊会長、東郷秀光副会長、亀岡敦子幹事、および白鶴邦子幹事が出席しました。当日は寺田貞治事務局長は地下壕を案内する予定になっていたため止むを得ず欠席しました。

湯川理事は超人的な忙しさの中、実に快く意見に応じて下さり、感謝いたしております。しかしその忙しさのためか、意見が実現するまでに双方の日程の調整がつかず、九月初旬に申し入れていた会見の期日が三転、四転し、やっと実現したのが十一月に入ってからでした。

保存の会からはこれまでの保存に向けての取り組みの状況を説明し、地下壕の入り口部分の土地の所有者

が保存の会の運動に理解を示して入り口部分を残した形で土地の売却を行って、地下壕の部分を重要な史跡として保存して欲しいが、差し当たりは少なくとも再開発はしないで欲しい、との申し入れを行いました。湯川理事は保存の会の要望は承った、現在は慶應義塾創立百五十周年に向けて日吉のキャンパス構想を検討中なので、それとの関連で検討も行われることになろうとのことであった。

保存の会は今後も横浜市、神奈川県、文化庁に地下壕保存への働きかけを続けるが、その進展も睨みながらまた会見に応じて欲しいとの要望を伝えて約五〇分の会見を終りました。

△意見とを汲み取って

幹事 亀岡 敦子・談

私達日吉の住民にとって、

慶応の校舎を取り巻く森やゲランドは自然が豊に残る安らぎの場所です。また、市民に開かれた大学としての公開講座は、生涯学習の場として嬉しい存在です。

湯川理事と日吉キャンパスの地図を見ながら、日吉の自然や民家の場所、日吉台地下壕の所在を確認しましたが、誠実で、前向きな理事の姿は、考えていたように遠い存在ではなく、話を聞いていただけ、信頼のおける方と大変好感を抱きました。

理事のお話ですと、日吉キャンパスの環境整備は、慶応の創立一五〇周年の事業の一環として考えることになるだろうとのことでした。

今後、機会あることに話し合いが持てたならばと切に思いました。

田心つこと

幹事 白鶴 邦子・談
湯川理事との会見はとても良い印象をうけました。

地下壕の見学会の時に、出入りのためにお世話になる民家に隣接する山の斜面が、本年売却されました。出入口がそのまま残されたことは幸運でした。

この民家の方に地下壕保存の意志を率直に伺い、その意志を慶応や横浜市、神奈川県に伝えていくことが、よい結果を生むのではないかと思います。

今回はじめて慶応の方との会見に参加して、私達にできることを積極的に実行していきたいと思いました。

谷藤 基夫

所よの地決もつ
 要し。が作る
 所で学す。保から
 要の。見ま。保か
 の。も。い。が。費。討
 壕なり。て。が。の。今
 下な。な。う。経。も。校
 地け。く。思。う。で。ご
 つ。置。な。々。し。そ。で
 一。板。が。と。る。し。予。う
 を。明。い。か。あ。す。の。よ
 望。説。違。い。は。で。会。し
 要。た。間。な。題。の。の。で
 か。つ。に。は。課。も。存。い
 う。作。内。で。ろ。る。保。な
 い。ど。案。の。い。な。は
 想。な。れ。ば。い。ろ。に。す。で
 感。ク。あ。や。ど。必。う。の
 に。チ。ッ。が。り。な。れ。そ。良
 の。会。ス。こ。分。解。ず。さ。も
 保。存。ラ。ち。の。ば。い。な。て
 に。う。た。権。者。れ。ば。も。お。い

二等兵参謀の

空想平和博物館設立案

酒井 啓

本年三月末、市民グループ「赤れんが倉庫に平和博物館を——『ピースミュージアムよこはま（仮称）』実行委員会」が設立され、その事務局会議に寺田貞治氏と出席しているのだが、報告かたがた何か書くようにということなので、現実と夢をとりまぜて綴ってみようと思う。

この構想は、横浜関内に残されている赤れんが倉庫（日本有数の産業遺跡）の一角を拠点に、日吉台地下壕など市内各地の戦争遺跡を分館としてネットワークさせた博物館が建設できれば理想的なのである。もちろん、赤れんが倉庫の本館には横浜大空襲や学

童疎開・戦没船舶・戦時日用品・米軍基地などの資料も展示・保管するはずなのである。けれども実行委員会が自力で博物館を建設する能力はない。そこで、横浜市に主体的に建設してもらおうと、横浜市長宛に博物館建設に関する要望書を複数回提出している

のだが、大きな行政組織が相手なだけに、平和博物館の建設はなんて難しいのだろうと思った。

また、実行委員会主催で、文化人による講演会を中心とした「公開講座」を複数回開催したけれども、受講者は失礼ながら中高年者ばかりで、戦争体験者が多かった。このことによる利点は存在するけれども、次の世代への戦争体験的知識の相続は困難である。つまり、博物館建設へ向けての世論形成には、重大な弱点が

が生じている。

それから、博物館建設に関して最も重要なことは、博物館理念だが、実行委員会メンバーは、博物館学・博物館論に疎い人達ばかり。そこで、博物館学関係の文献を多少読みあさり始めていた自分に、事務局会議での参謀的役割がまわってきた。

だから、博物館建設に関する要望書文面には、研究・教育のセンターとしての機能や市民研究室・図書室の設置を盛り込んだりした。

さらに、参謀としての教養強化のために、有能な博物館学専門家に個人的に相談して、斬新な助言を頂いたりした。

ただ、自分が博物館参謀としてまだまだ頼りない存在であり、尉官未満であることも自覚した。たとえば、関西や関東にある複数の博物館に対

して、博物館建設に関する、かなり程度の低い質問状を送付して、ことごとく相手にされなかった体験などで、自分が二等兵から上等兵ぐらいであることを理解したのである。だが、もうすぐ新年をむかえることだから、日本経済なみの暗い話はやめて、二等兵参謀には、大将になった夢も見させてもらうことにしよう。

まず、妄想横浜近現代戦争総合博物館の規模だが、延床面積九六〇〇m²（赤れんが倉庫全域相当）程度は確保したい。

次に、博物館運営主体は、公立財団にする。ただし、博物館運営の自主性は強固に確保する。博物館理念は、関東地方・中部地方範囲での戦争関係資料・戦争遺跡の収集・調査研究をおこない、調査結



果を教育普及することにして
おこう。横浜市内の戦争遺跡
は、本土決戦体制下では他の
戦争遺跡と広範囲で関連して
いたから。

それから、機構・人事。名
誉博物館長（顧問）は、現代

日本最大級の博物館論者・博
物館運動家である「竹竿忠夫」
氏にしよう。彼は、京都帝国
大学出身で、一九九二年に亡
くなった「今西金太」氏に一
九四〇年代から師事し、学術
探検活動を通して学問の各方
面に大活躍した。一九七〇年
代から活発な博物館運動を行
い、最近まで大阪千里にある
空想国立民族学博物館の名館
長をしていた。竹竿氏には、
博物館行政への威力を発揮し
てもらう。

なに、竹竿忠夫など知らない？ そんなことも知らない
非国民は、平凡社『知的市民
と博物館』『博物館の思想』
中公新書『博物館と美術館』
でも読んでおくがよい。

そして、館長・副館長（企
画研究課長兼任）は、「和幹
仁彦」氏と「及川末茶彦」氏。
彼らには、最低七年間は勤務

していただき、博物館運営に
関する専門性を発揮してもら
う。

彼らのことが分からないな
ら、樹花舎『博物館と「表現
の不自由」』でも読んでおけ
ばよからう。

副館長以下の機構・学芸員
人事は、館長・副館長に完全
にまかせてしまおう。

博物館紀要は、〇〇研究と
いう名前にして展望・論説・
短報などの構成をもち、学会
機関誌にする。もちろん、
他博物館職員・大学教官・学
生・一般市民も投稿可能だ。
全国範囲での話題提供も可能
だ。また、博物館主催で年数
回のシンポジウム・研究発表
会を開催して紀要の記事にす
る。ただし、研究調査論文に
関しては、査読制度を導入し
て、質の維持・向上をはかる。
ほかには、博物館主催で一

般市民向けの公開講座を開催
し、戦争遺跡の案内も行う。
また、市民が学芸員に相談可
能な市民研究室を設置し、図
書を自由に利用してもらう。

一方で、特別研究生制度を
設置し、郷土史家クラスの準
専門家の養成・教育・援助を
行う。これでは小さな大学だ。
自立した準専門家的市民をど
んどん輩出するのだ。

心配なのは、せっかくの研
究・学習装置と研究界水準・
市民水準とが、かけ離れてい
ないかどうか。たとえば、当
博物館職員以外で当博物館公
開紀要に投稿してくれるだろ
うか。市民研究室に市民がほ
んどいない状態が、市民水
準が向上するまで、数年間も
続きやしないだろうか。運営
の空回りの危険。頭痛がしそ
うだ。——二等兵参謀の夢
はすぐに覚める。

日士ロムロ地下壕
目元学子△云感心相心△

一月八日慶応生協学生

委員会による地下壕見学会

★戦争をまのあたりに見た気がする。時代を感じた。

★長靴の必要を痛感した。壕中電燈がこんなに役立つとは！

地下が明るければ仕事はできるだろうが、長期間、多人数で滞在すればストレスがたまる。戦時中はブライバシーもなかったと思うが・・・多くの人に知ってもらおうよう、ホームページをつくっては？

★日吉の地下にあのような広い空間が存在していたことに驚いた。ただあの空間に旧日本軍がいたとは想像できなかった。私有地を通らないで地下壕に入れるようにし、壕内を当時の状態に復元し、一般

の人に見てもらうべきだ。

★地下壕に住む虫や鍾乳石に驚いた。当時の通信機などが残っていたら見たかった。作戦会議室の写真などはもう少し公開して欲しい。

★こんな地下壕を造ってまで戦争を継続しようとした日本軍の執念を感じた。

★五〇年以上がたち、マスメディアで取り上げられることが少なくなり、忘れかけていた戦争をまた考えさせられた。

★途中に弥生時代の住居址などがある。日吉に遺跡巡りの散歩道ができるとよい。

★思っていた以上に広かった。日吉に下宿しているが、地下に歴史ある壕があり、戦時中に空爆があったとは信じられない。もっと詳しく自分で調べてみたい。安全面を考慮して、保存すべきであり、その歴史的背景も伝えていかなければならぬと思う。

ればならぬと思う。

★普通部や矢上キャンパスの地下壕も見たいと思った。専用の出入口があれば多くの人に地下壕を知ってもらえる。

★五〇年前の地下壕のしつかりした構造や、風通し、地上からの電力の供給が切れる事まで考慮しているのに驚いたが、間違った戦争のためと考えると感心してはいられない。この機会に平和と戦争の事を少しは考えてみたい。

★地下に大きな壕を造らなければいけない戦争、殺し合いとは、一体どれほどのものなんだろう。そんなにまでして勝ちたかった気持ちって何だろう。私は一生分からないような気がする。整備は雰囲気を変ってしまった程度に。★実際に中に入って、規模の大きさに驚きました。日吉に下宿しているので、自分の住

んでいる町にこんな大規模な地下基地があったとは、実感がわいてきません。

★地下壕を中心とした日吉地区全体が重要な戦争遺跡であり、県、市、及び国は早急にこの遺跡を整備し、保存すべきであると感じた。太平洋戦争を肌で感じることで、確かな数少ない遺跡であることは確かだ、広く一般に公開していくことが重要である。この真上で学習している慶大生として、この遺跡に対して、日吉に対して、その歴史を知らずに生活している学生の多いことは非常に残念である。中の泥を取り除き、鍾乳石は保存、内部構造を再現し、一般に広く公開する。戦争博物館として、慶大または自治体で整備・保存していくべきと考ええる。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 22

終戦前後 一

軍関係の方々に伺います。

(ききて・寺田貞治)

★増井潔氏・元海軍軍令部第

三部

終戦前後、軍は目茶苦茶であり、マッカーサー元帥が厚木に来る時は大変であった。

厚木航空隊は美松氏と同期の小国大佐が司令官をしていたが、終戦の詔勅を天皇の側近が作ったというので従わず、ピラを徹いて抵抗の姿勢を示した。中央では「これはいかん。制圧しなければ」と横須賀警備隊を出動させた。隊長は慶応出身の石原成蔵大尉で、サイドカーで乗込み、多少の

統制戦はあったが何とか無事に話をつけた。

私が終戦を聞いたのは海軍の築地の水路部であった。第三部で作成した情報は、水路部に印刷を頼んでいたもので、時々出かけていた。昭和二十年の初め頃、印刷を速やかにやりたいというので、水路部の一部が日吉に移った。医学部の予科の校舎(現第二校舎・一般教養理科棟)の北側のバラックに入った。

終戦を聞いて、直ちに日吉に戻り、地下壕に入り、収集した情報書類をはじめ、全ての書類を壕の南側の出入口の所で焼却した。

★金子善一氏・元連合艦隊司

令長官付の従兵

昭和二〇年八月一日、寄宿舎の前の広場に連合艦隊の人達が集められたが、大勢いたのには驚いた。

地下壕にあった秘密書類などを処分したり、生活に使えるようなものを持出ししたりしているのを見た。食糧の他、地下足袋などもあった。

戦後、海軍総隊(連合艦隊も含む)は、九月に目黒の海軍大学校に移った。私は復員局に残ってくれと言われたが、一月二二日に除隊して家に帰った。

★野口昭二氏・元連合艦隊司

令部暗号科

八月一日、寄宿舎前の広場に司令部の全員が集まり、玉音放送を聞いたあと、小沢長官の訓示があった。

このあと、私は残務整理で東京の朝日ビルの二階に二週間止められたのち、横須賀の鎮守府にいき、三笠会館で残務整理をした。仕事は何もやるのがなかった。たまに電報が来るので翻訳する程度で

ある。暗号関係では六二期生(今でも一七志会を作っている)だけが残務整理で残された。

その後、久里浜の通信学校に戻り、三日に一回暗号を訳した。将校のすぐ隣りの部屋で待遇もよく一年近くいた。六二期生の一人が「家に帰りたいと将校に申し立てたため「こんなに良くしてあげているのに何が不服か」ということで、全員依頼願免官になって追い出された。六人のうち私をはじめ三人はまだ残っていた。昭和二一年の冬のことである。

(生協ニュース教職員版第四三、四六、四七号より抜粋転載)

松幹事△△知事生口第四回

九月一〇日午後六時半

日吉地区センター

報告

一、八月一七日藤沢市百日間

事業委員会による見学会約二

〇名参加

二、同日横浜市政研究会によ

る見学会六名参加。茂呂幹事

案内

三、同一九日網島地区町内会

長による見学会約二〇名参加

四、同二六日TV朝日トウナ

イト2「監督が探検・東京の

意外な穴」ビデオ撮り。同二

八日放映

五、同二七日ピース・ミュー

ジウム・よこはま事務局会議

に参加

六、同二八日冊子「太平洋戦

争と慶応義塾」発行

七、同日全国学校労働者連絡

会による見学会一四名参加。

茂呂幹事案内

八、同二八・三一日平和のた

めの戦争展かながわ97、鎌倉

芸術館ギャラリーで開催

九、九月一〇日第四回幹事会

議事

◆冊子「太平洋戦争と慶応義

塾」の贈呈・販売について

原価：千冊、税込み四二万円

著者（講演者）：一〇部宛

贈呈・交換：一五〇部

販売：会員五〇〇円送料別

非会員六〇〇円送料別

現在までに大口二〇〇部、小

口一〇〇部程度を販売済

ご希望の方は白鶴幹事まで、

葉書でお申し込み下さい。

223 横浜港北区下田町

1-7-4 白鶴邦子

5000+280=770円

松幹事△△知事生口第五回

一〇月八日午後六時

日吉地区センター

連絡不十分で集りが悪かった

酒井幹事から保存の会のあり

方・調査法などを学んだ

松幹事△△知事生口第六回

十一月一九日午後六時半

日吉地区センター

報告

一、九月一二日南日吉小PT

Aによる見学会三二名参加

二、一〇月三日矢上小PTA

による見学会三八名参加

三、同八日第五回幹事会

四、同八日山梨学院大十菱

ゼミによる見学会先生六、学

生四二名参加

五、同二一日日吉キャンパス

研究環境基本計画委員会主催

の講演会「創造的研究環境を

求めて欧と米のオフィスの歴

史を語る」に出席

六、同三一日矢上小六年児童

野外学習による見学会先生二、

生徒二七名参加

七、十一月五日日吉キャンパ

ス基本計画委員会幹事会メン

バーの福山欣司助教授と寺田

事務局長が会談

八、同八日慶大日吉担当の常

任理事湯川武教授と蛟島、東

郷、亀岡、白鶴が会談

九、同日慶大生協学生委員会

による見学会二三名参加

一〇、同四日矢上小六年の

「地下壕について」の研究授

業を参観

一一、同一九日第六回幹事会

議事

◆会報四四号の発行

一二月一七日発行・発送予定

◆総会にむけて

議案書の原案を亀岡が考える

◆その他

*第六回横浜・川崎平和のた

めの戦争展の準備会を一一月

三〇日に予定

*製作済の地下壕見学会案内

用ビデオの試写を次回幹事会

に予定

●学習会

保存の会のあり方・調査法な

ど、再度酒井幹事を中心に学

習した